

2002年度

信大山岳会

新人合宿

報告書



5/19(日) ~ 5/26(日) 於上高地・湊沢

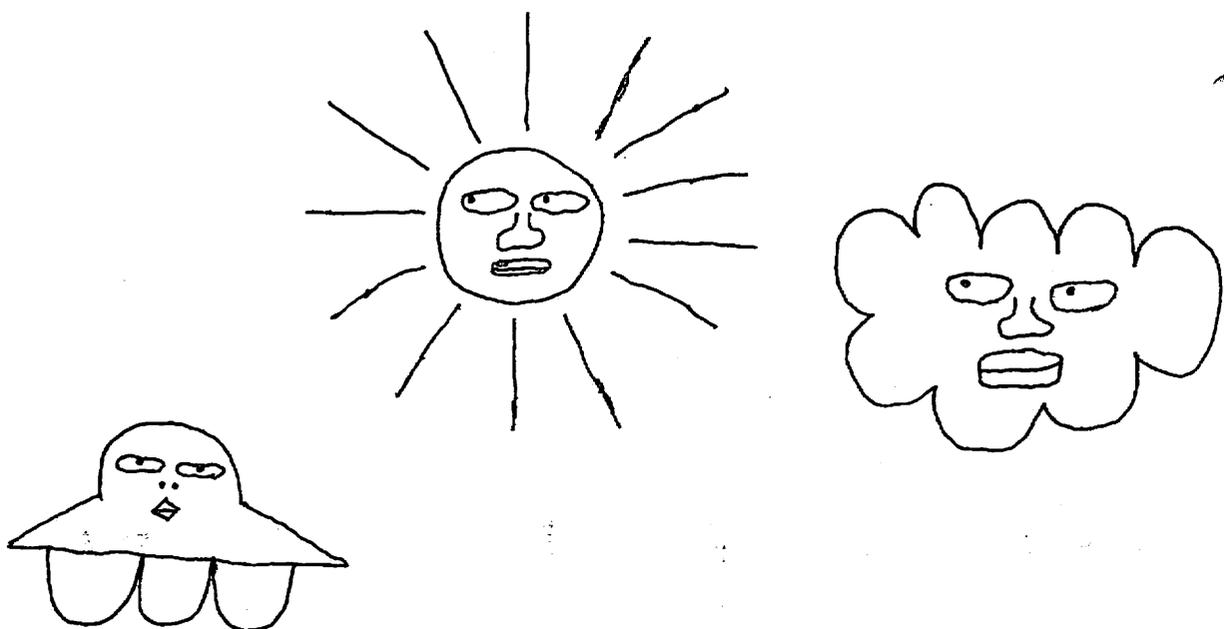
# もくじ

合宿概要・記録 ----- 2

係からの反省 ----- 7

個人の反省・感想 ----- 10

魂の叫び!! ----- 20



# 新人合宿 ■ 概要・記録 ■

ルート. 穂高周辺

日時. 5/19 ~ 5/26

メンバー. L 佐藤 (3年)

SL 片寄 (2年), 高谷 (2年)

片塚 (1年), 尾鼻 (1年)

大橋 (1年), 瀧澤 (1年)

水野 (1年), 三森 (1年)

梶原 (5年), 横山 (勝) (5年)

山本 (学士山岳会)

計12名

5/19 (日)

- 4:00 Box 集合
- 5:30 車止、砂防ダム 出池 ①
- 6:30 二俣 ①
- 8:10 瀬戸沢 ①
- 9:40 岩魚留小屋 ①
- 14:05 徳本峠 到着 ●
- 15:00 " 出発 ●
- 17:45 明神、T.S. ①

あなたはわかるかな？ (あるポイントでの会話)  
 公衆電話 を英語で... public telephone  
 薬局 " ... pharmacy  
 名所 " ... sights.

今日の感想

大橋: 今日は徳本峠の峠で走ってしまっただけで、  
 峠を越えてしまっただけで、帰りは車道を走って来た。  
 今日のくちはは絶対たけな。 → 1/10/10/10/10  
 徳高は相対的な高さだ。

大塚: 本日の行程は「遅い」です。  
 明日はちゃんとトレーニングをします。



峠は遠い.....

5/20 (月)

- 6:00 起床 ① 偵察隊 ①
- 7:35 明神 T.S. 出発 ① 11:30 BC 出発 ①
- 8:35 徳沢 ① 12:10 本谷 出合い ①
- 10:50 横尾 B.C ① 13:20 B.C. 着 ①

尾鼻 朝の準備時に便所に筒の蓋を忘れて来た。  
 B.C.に着いてほったした。

瀧澤 初日 公定の装備を揃えてきたが、  
 岸本さんには、サホーラーを借りた。  
 たしかに良い。手ま踏いはBC通過  
 が、よくない人だ。明日から  
 解剖頑張るぞー!

水野 初日の肩や腰の痛みが今日  
 に続き、登り、下りがほとんどない  
 とはいえ、結構ええから。でも、岩  
 がよく見えて大変な B.C.だ。



うちの高谷くん

5/21 (火)

- 4:00 起床 ①
- 5:20 出発 ②キ
- 7:00 本谷出合い 上 ②キ  
バンリ)
- 7:45 涸沢ヒツテ ①
- 8:15 雪割開始 ①  
強風のため遊難、
- 10:05 涸沢ヒツテ ①
- 13:30 雪割終了 ①
- 14:50 BC着 ①



三森 バンリがメキワ稀 キリがたふと雪で  
まだうまくヒョケルストップがてきない。明日は  
今日は少しましなようにしたい。

其木 明日は早くも4日、一年の時と較べて時が経つ  
のが早い気がする。あと5日、死ぬ程(何か深い意  
味か)楽しんで〜!!

青寄 バンリIVシリ カラサリ バンリII  
Iシリ バンリII さあさんなヒレヒツテ  
(7777-20F.のチ-2)

5/22 (水)

- 4:00 起床 ①
- 5:20 出発 ①
- 7:00 涸沢ヒツテ ①
- 7:40 涸沢ヒツテ ①  
雪割 ①
- 13:20 涸沢ヒツテ ①
- 14:40 BC着 ①

一年の苦しみ明日は楽しんでクリヒリセー

水野 グリセド、シリセドは、けこ  
おもしろかった。でも危険な技術であると  
いうことは念頭においておこう!

大橋 ヒョケルシヤアウ 主な 7x4  
使った状況に90のはもろんた  
シリヒ技術も身に付いた。

其木 今日は、F1リスト御飯 <sup>1杯</sup> シリヒ  
ILを杯食未、食へ未ることは幸せ  
だのよ 1年生 精神じゃ!!!!



5/23 (木)

4:00 起床 ○  
 5:15 出発 ○  
 6:00 槍見台 ○  
 9:00 蝶ヶ岳山頂 ○  
 9:30 山頂出発 ○  
 11:30 B.C.着 ○

5/24 (金)

4:00 起床 ○  
 5:10 出発 ○  
 6:00 新村橋 ○  
 7:15 松高尾根取付 ○  
 10:25 奥又白池 ○  
 15:45 新村橋 ○  
 16:30 B.C.着 ○

なんでみんな名前を前に書くん？  
 日本語会話 (じゃあーんたのら)

↑ 13ト  
 ちやうど

P.S. 尾鼻のケツを見てもいい

大橋。明日の火 3分だけ

奥又白谷、楽しみにします。(井)

初、奥又白!!

なかなか、あ、ほれであつた。  
 先人たすの開始した松高尾根。  
 感慨深いものがあつた。  
 よいかな、よいかな... 祝

奥又白池にはびわいた。  
 厚に靴来たいた。

尾鼻

意 (土)

本隊		Fix 隊	
2:00	起床 ○	2:40	B.C. 発 ○
3:00	出発 ○	3:40	槍沢 ○
6:00	槍沢 ○	6:20	肩ノ小屋 ○
9:45	槍ヶ岳山頂 ○	10:00	Fix 回収 ○
15:00	B.C.着 ○	①	本隊合流

まさかバシリを本当にやるとは思ってなかったの  
 でビックリギョクキツキツだった。それにままして  
 槍からの眺めはよかつた(ホギタ)のどらけい。  
 (5)

4回目の槍にして初めての登頂。おかつた。  
 えかつた。天気の良い日の槍はえーねー。  
 英太郎

上高地  
川童橋

5/26 (日)

- 6:00 起床 ①
- 8:30 出発 ①
- 10:00 お昼参り ①
- 12:00 上高地下山 ①

今日は下山のみの行動なのに、足がすごく痛くなった。  
三森

川童橋から飛石を走ったのが高たつた。  
川童橋で下山して上った。 女橋

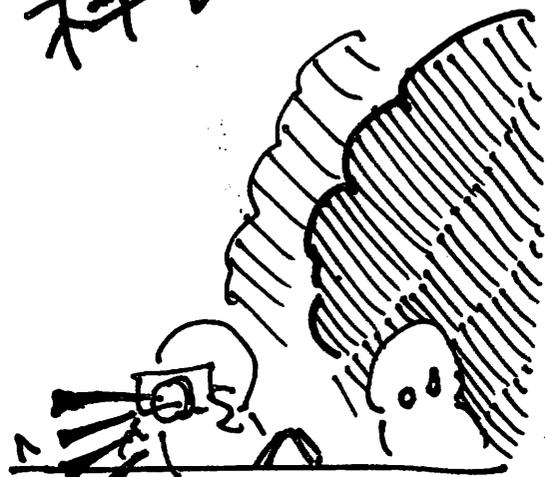
無事に川童橋に帰って来れた。よかった。  
尾鼻

川童橋の「川」は、気持ち良かった。  
ちよ、と「川」っぽく見られた。(笑)

足が痛く帰って来た。水が冷たい。  
水

川童橋の下界に戻った。とりまき感謝!!

The  
"梓 DIVE"



係-から-の

反省



エッセンの反省 高谷 英太郎

- ・ 米が少なかった。上級生1・5合、1年生2合は必要。  
紅茶の一時紛失があった。調味料袋の管理をしっかりと。
- ・ 調味料に醤油や、単品での塩などがあったほうがよかった。
- ・ 差し入れを、カラスに食べられてしまった。防御方法を考える必要がある。
- ・ 差し入れありがとうございました。
- ・ 買出しのとき、野菜の購入が少なかった。

会計報告・反省 高谷 英太郎

支出 食費	83635円	収入	160032円
装備費	35067円	合宿費は、現役は	15300円。梶さん
交通費	41040円	は	14000円。岸本さん、ジャンボさ
合計	160032円	から	4000円ずつ徴収した。

- ・ 林太郎さんや五郎さんを含めて、車を出して下さる方への事前の交通費の支払いができず、支払いが遅くなった。申し訳ありません。
- ・ 帰りは、自分達が出せる車をもっとあった方が、交通費も削減できてよい。
- ・ 帰りに、車がどれだけ出せるかによるが、今年と同じような状況であったら、始めから合宿費を多めに徴収しておいたほうが良い。追加徴収をすると何かとややこしい事になる。

### 係からの反省

(気象)・ポンドさんに借りた、でかラジオはよかった。横尾は電波の入り悪し。  
・やはり新人合宿で天気図を仕上げられない1年生が多い。チェック入念に。

- (装備)・育テンポールの一本は毎度タープより借用すること
- ・晴れ続きのおかげで焚き木を多用できたため、白ガス使用量は4 l弱程度
  - ・来年はてんぷら用に網を加えませう
  - ・槍の登攀で下からFIX ベタ張りにする場合、150mでは余裕なし。中ごろで不要そうなどころがあるのでそこを省略するのも手
  - ・シュリング 15 本では初めから個装を当てにしているのと同じ。ベタ張りなら団装の 15 本では足りない
  - ・カラビナに安環を混ぜるのを忘れないように
  - ・テント (特に育テン) を防水するのはグッド
  - ・ろうそくの代えは今回一本も放出なし

来年の参考にしてください。

# 個人の 反省・感想



Mt. Okubo

Mt. Karasawa

# 北アルプス行脚

—2002年度 新人合宿—  
牛鼻朝子に寄せて。

<感想> “満身創痍”の言葉に表される様に、この山行は私の今までの(僕がではおもん)山岳人生の中でも最も過酷なものとなりました。

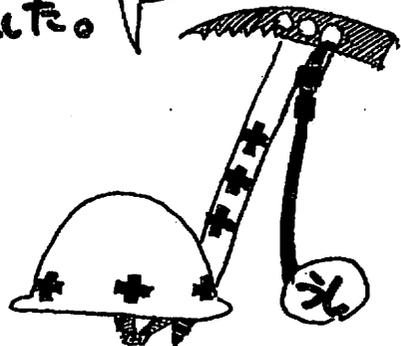
地元の奥多摩・丹沢とは全くスケールの違う、6年ぶりの偉大な北アルプスに真正面から挑み、見事玉碎してきた、という感じですか。ラッパの槍に至っては、挑戦すらできな、程だったので、玉碎という言葉自体 おこがましいかもしれませんが...

「お金は持っていないからね。脱走せよ」と因りから、という横山(輝)氏の言葉のイミに合宿前に気付いておくとした...と深く後悔しました。

<反省> 今日浮き彫りにされた自分の体力・技術・知識・精神力の至らなさに愕然としました。

加齢と2年半のブランクを埋めるためにも、まだまだ自身に厳しく接して行く必要がありそうです。

今回山行で命を預けた(助けてもらった)由緒正しき土方用具



合宿前、私は不安びっぱいでした。特に、体力的にみんなについていけるかが心配でした。初めて背負う重いザック、一週間の山行、これに耐えられるか、不安でした。しかし、合宿1日目、2日目は特にバテる事もなく終える事ができて少しほっとしました。それよりも大変だと思ったのは朝のエッセンでした。起きてすぐに手際よくツレ火をやるのにとっても苦勞しました。また、個莖をまとめるのに時間が、かかって困りました。

3、4日目の雪上訓練はつらかったです。ピッケルストップがなかなかうまくいかず、また、走りでは自分の体力のなさを痛感しました。

5日目の蝶ヶ岳は楽しかったです。天気も良く、頂上からの見晴しも良くて、とても良かったです。

6日目の奥又白池も、池には穴がうかりたけで、緊張して登って良かったです。

そして、私が一番うれしかったのは、今までずっと憧れていた槍ヶ岳の頂上に立てた事です。途中の走りは長くてつらかったけど、それ以上たうれしかったです。

今回の合宿の反省点は、体力がなかった事と、雪上を下山中、たまたまが抜けて足をすべらした事です。これからは、日頃のトレーニングを怠らなくて、山では常に緊張を保てるようにしたいです。また、一茶芸も磨いていきたいです。 尾鼻陽介

## 一歩一歩の大切さ

一年 瀧澤輝佳

アプローチ初日、僕は明らかに気持ちが浮ついていた。心配されていた天候もまずまずで、Knockさんから譲ってもらった山靴が思いのほか足に合って靴擦れの心配もない。ザックもそれほど重く感じず、体力にも自信があったので、久しぶりの登山にただ期待で胸を膨らませて快調に徳本峠を詰めていた。途中降り出した雨も気にならなかった。しかし徳本峠小屋に近づくにつれ左膝が痛み出す。昨年の夏に単独日帰りで五竜岳に登った際、下山間際に痛くなった所だ。下りに入りますます痛みが増す。しまいには左足が上がりなくなった。ギブアップ。一本取ってもらい、団装をばらしてもらうことになった。岸本さんがストックを貸してくれて、みんなから遅れて歩いた。ただただ悔しさがこみ上げる。前半調子に乗って跳ねるような無駄の多い登り方をしていて、ザックの重さを侮っていた。筋持久力が受験期間中にいつのまにか低下していた。自分の不甲斐無さを痛感し、上級生が急に大きく見えた。やっとの思いで明神T.Sに着き、テント内でストレッチをして膝が何とか曲げられるようになった。岸本さんの話では靭帯が擦れる痛みらしくストレッチをして一晩休めばだいぶ良くなるという。しかし明日への不安は拭えなかった。

二日目、岸本さんが膝用のサポーターを貸してくれ、再びストックも借りて慎重に歩いた。横尾 B.C までは上り下りがほとんど無いこともあり痛みは無かったが、三日目以降の雪訓に向けて再発しないように一歩一歩集中して歩いた。夜は再びストレッチを入念にした。三日目もサポーターをして慎重に歩き、厳しい雪訓を乗り越えた。四日目以降は筋力が回復したのか違和感も無くなりサポーターをはずし全快した。

僕は新人合宿をなめていた。自分の能力を過信していた。単独ならば身動きが取れなくなっていただろう。あらためて山の厳しさを実感出来た事が今回の合宿の最大の成果と言える。これからの山行も二日目以降の様に一歩一歩に集中して歩こうと思う。また準備の段階で、体力作り及び筋力トレーニングを怠ってはいけない事も確認できた。

この件に関して、岸本さん、梶さん、佐藤さんにはたいへん助けられました。ありがとうございました。山の借りは山で返します。

## 新人合宿の反省・感想

三森武志

### 反省

はじめて合宿の存在を知ったとき、一週間は長いなあと思ったけど、やっぱり長くて、最終日が近くなると周りの風景もあんまり楽しめなくなっていた。ちゃんと毎日8時間眠っていても、日に日にからだに疲れがたまるのを感じて、バシリも含めて、自分は体力がまだまだ足りないと思う。あと、落石とかの注意も上級生に言われてそれからやるという場面も少なからずあった。そういう部分も結構おざなりになっていた気がする。細かいところも直せずそのままになっているところもある。足の置き場なんかがそうで、浮石に乗って、からだがぐらつくこともあった。これらのことを踏まえて、日々精進したい。

### 感想

全体としてみれば、たいした怪我もなく、行動もすべて予定通りに運んで、僕個人としてはうれしいかぎりだ。奥又白の雪渓や、蝶・檜からのながめがとても印象的で、見えてる山の名前がわからないのがすごく悔しかった。合宿中に少し感じたのが、山に連れて行ってもらっているということだ。技術も経験も知識もない一年生なのだから仕方のないことかもしれないけれど、早く一人前になって自分の山に登れるようになりたい。この合宿はその手始めとして、いい経験になったと思う。

## 新人合宿・反省感想

2年 片寄 哲生

「新人合宿は自分たちの山行ではない。1年生を‘連れて行く’山行だ。」

合宿から帰還後のボックスでのリーダー会でこう言われた。

上級生として臨む初の合宿は、終始これといった悪天に見舞われることもなく済んだため、結果として雪訓指導その他においての1年生への配慮が軽減されたように思う。たしかに合宿中から合宿後の反省までを通して、“2年の気配りの甘さ”をいつも指摘されたことからわかる通り、はた目が考えるほどの配慮は不十分であったことだろう。とはいうもののやはり、一週間を無事に終えることができたことに感謝し、安心している。

現役の上級生が正味3人、しかも4年不在で内2名が2年という状況での合宿。5年生以上にも手を添えてもらいながらの1週間だった。ほぼOB的な先輩方の参加は、いなければ盲点・手拔かりが続出しただろうし、いればいつの間にやらあてにしてしまう、といった感がある。

確かに今回は前述の通り、天気にも恵まれたことから歩荷、雪訓、ピークハントと、どれにしても申し分ない活動になったと思う。松高尾根から奥又白池へも初めてながら行ってこられたし、槍ヶ岳への登攀も大展望をもって無事に終えることができた。とにかく、活動事項を羅列するだけなら新人合宿としては相当おもしろかったといえる。

しかし、自分の上級生としての中身を振り返ると、そうそう満足のいく内容と言えない。“上級生としての合宿参加”の心積もりがまったく話にならなかったからだ。この意味でもし合宿中の天候その他の条件が悪い方向に働いていたら、と思わずとする。周りに、特に1年生に目を配ること、上級生として行動を進めること、危機感など等、上級生たることの課題は大きい。

はじめに挙げた言葉、肝に銘じて忘れないようにしたい。

次は縦走。それから夏合宿。どちらも長い歩荷が待っている。どちら共に上級生としてのレベルアップを計りたいと思う。

## 新人合宿考

### 2年 高谷 英太郎

新人合宿が終わった。今年の新人合宿は、上級生として参加した初めての合宿であったわけだが、この合宿では上級生が持つ責任の重さを痛切に感じた。はっきり言って今回の合宿で、自分が下級生を守る上級生の役割を完璧に果たせたとは思えない。まだ自分のことに目がいてしまい、周りに気を配ることが出来なかった。これからは上級生としての自覚をしっかりと持って、その重責を担っていきたい。合宿の中身について振り返ってみると、今年は天気にも恵まれ、全日程を沈黙無しでこなせた点からもとても充実した合宿であったと思う。徳本越え、雪訓、蝶ヶ岳、奥又白池、槍、そして裏メインイベントのバシリ、河童橋からのダイブ。どれをとっても去年より楽しむことが出来た。

今回の合宿での一番の収穫は、1年生との絆の形成だと思う。今年の1年生は人間的にも魅力あふれる奴ばかりで、心からこいつらと一緒にこれから山に登っていきたいと思えた。1年生とのこれからの活動を想像すると心がときめく。やい1年生！これから3年間（最低で？）一緒に頑張っていこうや！！そして自分たちの山登りへ突き進んでいこう！！若さとは後ろを振り向かないことぞよ。以上。

# 新人合宿 感想と反省

佐藤 祐樹

一年生お疲れ様。雪訓、歩箭、ばしり等よくがんばった。そのがんばりが各々の向かの糧となり自信に変わったのではないかと  
思う。自分の限界を見ることのできる機会はない。しかし、  
限界という言葉は便宜的に使われたものであって、実際限界と  
いうものは存在しない。自分の中で限界を決めてしまったとき、往  
々として限界ができてしまう。常にギリギリの一手手前に踏  
み出すことが進歩するための手段であり、これを維持することが  
重要であると思っている。一年生、これからもがんばってくれ。

一年生にもう一言。今回の合宿でもっともうれしかったこと  
のなかで、皆、山の楽しさの一端を感じていた。新人合宿は  
雪訓、ばしり等訓小隊主体であり、ヒコクに立つ機会があ  
まりない。しかし今年、天気に恵まれ、蝶ヶ岳、奥又白池、槍  
ヶ岳と（奥又白池はヒコクではないけど）その機会が下くて人あ  
た。特に槍ヶ岳に立ったときの一年生の叫びは上級生として  
とてもうれしかった。「山が楽しい」と感じたことは合宿メインの  
雪訓と同じくらいの価値あることだ。「山が好きであり、信  
州大学山岳会がやっていたから信大山岳会に入っている」と胸を  
はたいていえるような人材になってほしい。槍ヶ岳山頂での思  
い、決して忘れるな。それが山岳会の根本的存在理由で  
ある。

今回合宿のリーダーを務めたが、指揮系統の甘さ、全体を  
見る目、各係の管理能力等、様々な反省が残る。不費  
水がリーダーで小遣み多き一週間であった。こんなリーダーに  
一週間もつき合ってくれたリーダー部員たちに心から感  
謝したい。

魂  
の  
叫  
び

# 満身創痍

牛塚朝子

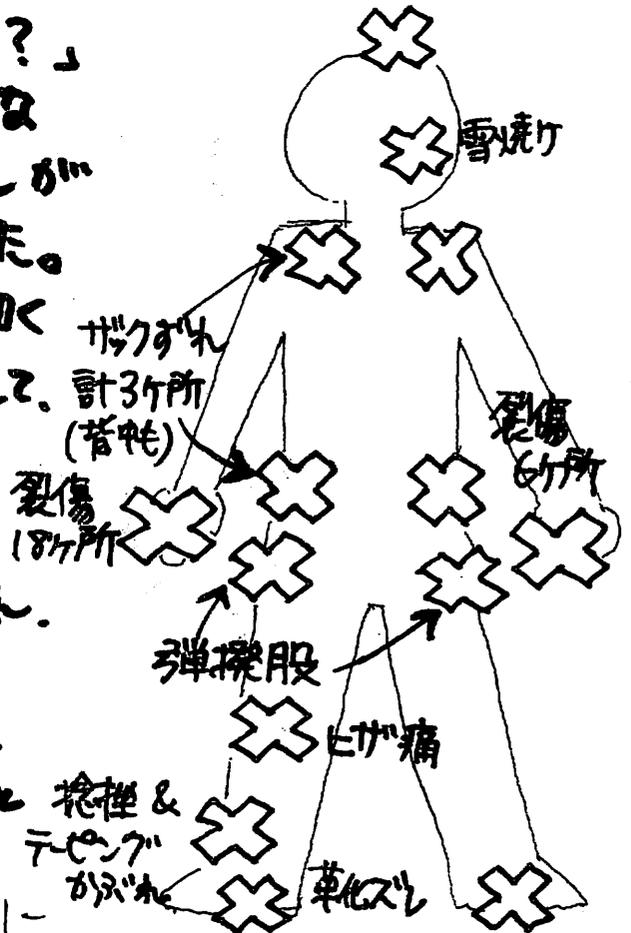
という言葉がピッタリだったのが、

下山時の私でした。下田の通りの顕著な外傷に加え、全身筋肉痛＆アサだらけ。両脚、足はなぜかドラえもんのように、下山後4、5日はむくむくむくんに腫れておりました。

3森から「お前どこか血のめぐりでも悪いのか？」と言われるほど「兎事なむくみ、ふりてくるぶしがなくなるとしてしまいました。

頭髪ロウケツがヤバク

故に現在少しすら細くなっているmy legを見て、おお激やせ！と言ったり、元に戻ると言われたら、とツ、込まれぬが喜びしていました。やはり早には戻らないと言ふことであらね。キーンと養生せねば。



魂の叫び

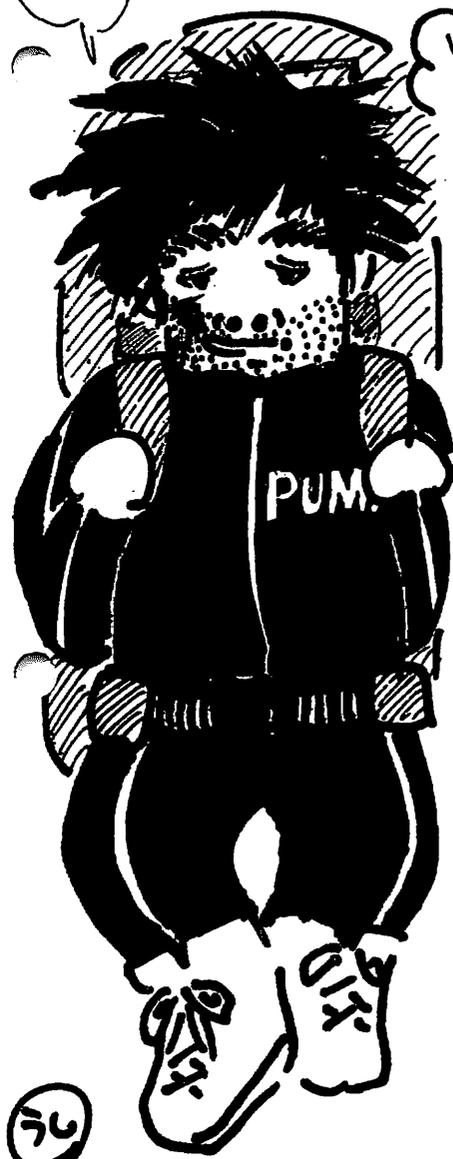
三森、尾鼻、水野、タッキー、そして牛塚、合宿一緒に過ごして、同じ釜のメシ食って、河童橋から、飛び降りたオレ達みんな死んでもずっと仲間だぜ！ 苦しいときは、お互い助け合おうぜ！

下山後は合コンか？

この星は俺達のものだぜ！ この星は貰ったー！！！！

You can do!

By. ジョーカー



如達者氏  
「迷」言集。

「うおおー  
俺はやめえぞー!!!」  
橋ヶ巻

「俺はせびやてめえぞー!!」  
立岩

「来年雷溪バツリで一位  
取れたら全裸で偉大一周」  
横尾B.C

「タッキーの両親は  
タッキー以上にあつたかよ」  
龍澤泉

私、尾鼻陽介は、神奈川県は、  
丹沢山のふもと、山北町に生を受け、  
19年間この田舎町で育ち、信州大学  
理学部生物科学科に入りました。  
私は幼少の頃よりサッカーと音楽が  
好きでした。それは今でも変わりま  
せん。

今、私はオムレツが食べたいです。  
こんなシャイな私をよろしくお願い  
します。

## 槍ヶ岳への葛藤

一年 瀧澤 輝佳

この新人合宿中に何度山岳会を辞めてしまおうと思ったことだろう。膝の故障と予想以上の疲労で心の振り子は大きく振れ出した。上級生の後を淡々と歩きながら様々な考えが頭の中を駆け巡る。経済的な問題、学業にも打ち込みたい、他にもやりたい事は山ほどある。初日から連日続くばかばかしい“食いしごき”、仕事でインストラクターをしていた僕から見たらあまりに無茶な潤沢、槍沢での“ばしり”、そして僕の大嫌いな体育会系の権威主義。権威を否定していた母校の影響に加え、ここ五年間放浪生活をしてきた事もあり、始めは命令される事にすら不快を感じていた。権威主義依存の戦時中の軍隊のような行進に、この人達は戦争になったら真っ先に死んでいくのではないかと心配したりもした。社会人サークルの方が自分には合っているのではないか。個人で登ってもいい。歩きながら次から次へと辞める口実が噴出する。そんな中で僕をこの山岳会に引き止める要素はあるのか。合宿で苦楽を共にする仲間達？OBなどたくさんの人達とのつながり？大学の居場所？伝統ある山岳会の一員としての名誉？どれも決定的ではなかった。一時は合宿から逃げ出そうかとも思った。逃げないようにお金は持っていくなという冗談だと思っていた先輩の言葉が現実的になってきた。ヒッチハイクをしてでも逃げようか。

しかし五日目、蝶ヶ岳に登った辺りから考えが変わり出した。穂高連峰の壮大な眺めはまた振り子を動かした。六日目の松高尾根からの奥又白池では、二日間の厳しい雪訓によって雪上の歩き方、滑落してもピッケルで止まれるという自信、その他たくさん実際に必要な技術が確かに身につけている事を実感した。そして七日目の槍ヶ岳。奇跡ともいえる美しい尖塔の頂きに立ち、完璧な360度の展望を我が物にした瞬間は、きっと一生忘れ得ないものとなるだろう。いつの間にか山岳会に感謝していた。

この合宿で一つ確信した事は、やはり僕は山が好きで、また僕は山に向いているという事だ。一步一步山を歩く毎にどこからともなく力が湧いてくる。自然を克服しようという原始生命からの本能が目覚めますのかも知れない。魂の叫びが聞こえそうな気がした。

これからも葛藤は続くだろう。僕がまだ若く理想に燃えていた頃ならもう辞めていたに違いない。しかしこういうときは離婚間際の夫婦にするアドバイスを思い出す。押し寄せる問題を一つ一つ解決していこう。ゆっくり時間を置いて考えよう。意外と大した問題でもなかったりしてね。

# 魂の叫び!!

(つじやき)

どうもこんにちは。水野智章です。新人合宿ではなぜか「不思議少年」にされてしまいました。(うかつだった!)  
うーん。自分では何が不思議なのかよくわからん...  
という訳で、以下、僕の「不思議さ」を少しでも解消するために、ちょっと頑張っ<sup>て</sup>プロフィールでも書きます。

性: <sup>みずの</sup>水野

名: <sup>ともあき</sup>智章

1983年11月19日生

身長: 173 cm 体重: 58 kg スリーサイズ: ?  
ish

<僕の行方>

名古屋(中区) → 福島 → 横浜 → 名古屋(中区) → 岡山 →  
奈良 → 名古屋(中区) → 名古屋(緑区) → 長野(松本) →  
長野(上田) (予定)

<人に言わせてみれば僕は...>

- ・何を考えているのかわからない
- ・かわいい
- ・一緒にいると時間の流れがゆっくりになる
- ・にくめない
- ・無口な方
- ・意外にスポーツが得意、意外にあほ

全部過去に言われたことです。

<好きなアーティスト>

ロック: スピッツ, Mr Children, ELT, その他もろもろ  
イージーリスニング: 泉次郎, ゴンチク

<好きな食べ物>

もろまめ、魚・肉の内臓、グリーンピース

自分でこれを書いていて、自分でも自分が何物かよくわからなくなったかも...

# 魂の叫び

三森 武志

入ったときはまだ山岳会の実態や自分の行く末に不安を抱いていたが、今は違う。今は1つでも多くの山に登りたい、岩に登りたい。脚がっろうが、腕がパンプしようがおかまいなし。数え切れないほどの山に登り、達成感とは違う何かを自分の中に感じとれるまで登り続けたい。

プロフィール

身長 172cm 体重 60kg

年齢 19歳

出身 静岡県西部

あだ名 特になし、誰かつけて!

兄弟 姉2人 (23と21のお年頃、誰かもらってやって下さい)

趣味 読書 (最近時間が無い)  
寝ること

印刷：松本

印刷日：6/5(水)



編集：井上

表紙：三森